



DXジョブカタログ

～DX人材として求められるジョブとスキルをわかりやすく解説～



学びのコーチ

パーソルイノベーション株式会社 学びのコーチ

- ☑ 何を学ばせればよいかわからない。
- ☑ 多数ある学習コンテンツを効果的・効率的に学ばせるにはどうしたらいいの？

カリキュラム設定の流れ

01

人材像ヒアリング

対象者の部署や人物像などをヒアリング

02

スキル選択×レベル設定

必要なスキルと到達レベルを設定

03

カリキュラム設計

スキル×到達レベルをもとに最適なカリキュラムを選定

ジョブ別（職種別）に求められるジョブ内容や必要なスキルをご紹介します



企画



プロジェクト
マネジメント



営業



情報システム

学びのコーチが定義しているDX人材育成に必要なスキル一覧。
カリキュラム設計の段階で必要なスキルを選定します。



DXの推進で発生するITプロジェクトをマネジメントするスキル



DXにおいてアプリケーションを活用する為のスキル



DXにおけるクラウド利活用に関するスキル



DX推進において求められるセキュリティに関するスキル



DXにおけるデータ利活用に関するスキル



DXを推進する上で求められるリーダーシップスキル



DXの推進に必要な業務知識としてのマーケティングに関するスキル



DXを推進する上で全体構想を考えまとめるスキル



DXを推進する上で収益上のコスト/リターンを説明するスキル



DXを推進する上で業務プロセスを可視化/分析するスキル



DXにおいてユーザーの視点に立って思考するスキル



DXを進める際に情報システム部門とフロント部門の間に立って様々な役割を担う人材

ジョブ解説

DXを推進する際に企画部署が推進者としての役割を持つケースが増えている。経営・現場・情報システム部門の間に立ち、DXの取り組みを推進していく役割を担い、ビジネスもITも全体を俯瞰して考える力が求められる。とりわけビジネス要件～業務要件に関しては主たる責任を持つ役割となることが多い。

例えば、営業企画においては営業生産性を高めるためにデータを利活用したマーケティング・セールスプロセスの再構築、人事企画においては組織パフォーマンス向上のための、人事データを利活用した施策の立案等が挙げられる。業務プロセスを俯瞰し、データ利活用を進め、適切なアプリケーションを導入し、業務を運用管理するスキルが求められる。

以上からデータ利活用に関するトレーニングや、アプリケーション利活用に関するトレーニング需要が高い。

代表的なスキル

アプリケーション活用



アプリケーション活用

業務で利用可能なSaaS利用をきっかけに、ビジネスの課題解決を考えるケースも増えてきている。SaaSの低コストで優れたパフォーマンスを活用する為にも、アプリケーションへの理解を深め、使いこなすスキルを求められるケースが増えている。また、目的をパフォーマンス向上にした場合、既存の業務プロセスの再設計と、アプリケーションを熟知した上での業務プロセスの再設計を同時に行うなど、複合的なスキル発揮が求められる。

データ活用



データ活用

DX推進の文脈においてデータ利活用が関わるケースが多く、企画はデータ利活用のスキルを持っておくべきだと考える企業が増えている。

仮説立案、データ収集、前処理、分析、分析結果解釈と仮説検証など、一連の活動が出来ることが求められている。これらはエンジニアリングスキルよりもビジネススキルに近い。

2 プロジェクトマネジメント

ITプロジェクトマネジメントのスキルに加え、クラウド活用やアプリケーション活用の知識が求められる。



顧客のDX推進に影響を受けたITプロジェクトについて プロジェクトマネジメントを推進する人材

ジョブ解説

受託案件自体が増えていると同時に、DXを意識した案件も増えている。プロジェクトマネジャーの人員不足が慢性化すると同時に、DX関連の高難度プロジェクトを担当できるプロジェクトマネジャーの需要も高まっている。

高難度プロジェクトを担当する人材にはDX推進の事例、PoCの進め方や業務要件定義に関するスキルが求められる。通常難度のプロジェクトを担当する人材にはプロジェクトのQCDを安定化させるためのスキルが求められる傾向にある。併せてインフラやアプリケーション等の担当領域に応じてクラウド活用やモダンなアプリケーション活用に関する技術的なスキルを身につけるニーズも高まっている。以上からDXプロジェクトの扱い方トレーニング、ITプロジェクトマネジメントの新人向け基礎や経験者学び直しトレーニングの需要が高い。

代表的なスキル

ITプロジェクト マネジメント



クラウド 活用



ITプロジェクトマネジメント

各企業において共通する本スキルの課題は、属人化・ブラックボックス化すること。平準化・可視化の観点を重要視し、PIMBOK等に準拠しかつ単なる座学ではないトレーニングへの需要が高い。管理スキル（課題管理、品質管理、進捗管理、コスト工数管理等）について学習者自身が属人化・ブラックボックス化の課題本質を理解し、弱点や癖を修正する意識をもって学ぶことが求められる。

クラウド活用

クラウドの普及に伴い需要が高まり続けている。

ベンダー毎のクラウド製品（AWSやAzure等）に依存したスキルであるため、各ベンダーのクラウド認定資格に注目が集まっている。とりわけ広範な知識を問われるアソシエイトレベル（AWS-SAAやAzure Administrator等）の需要が高い。

顧客のDX推進に沿った提案営業、社内のDX推進に沿ったデジタルを活用した営業を実践する人材



ジョブ解説

自社の商品を提案する際に、顧客側のDX推進に沿った提案をする機会が増えている。

営業は自社の商品知識に加え、DX推進に関する知識も求められている。DX推進の一般的な事例、DX推進のプロセスなど幅広い知識を持っておきたいニーズが多い。それらの知識を持った上で自社の商品をどのように提案できるかを考え、営業生産性を高めることが求められている。

また、デジタルを活用した営業を推進することも求められている。顧客・販売等の各種データを利活用するにあたって、データの基本的な理解、データの扱い方、マーケティング観点でのデータ活用事例等を学ぶことがトレーニングテーマに選ばれている。

代表的なスキル

データ活用



データ活用

顧客データを利活用した営業活動が普及しつつある。基本的なデータリテラシーを身につけることが求められている。

データサイエンスの概要を知ることやSQLなどで実際にデータを取り出す体験を通じてデータ利活用の意味やデータの扱い方の基本的な理解を習得する。社内のDX推進の意味を理解したうえで、現場でのデジタル活用を推進する力が求められる。

ビジネス構想



ビジネス構想

提案営業を行うにあたり、顧客のDX推進を理解することが求められる場合が増えている。

DXの事例を広く浅く知ることや深く知るためにビジネスモデルキャンパスなどからデジタルによる事業変革を分析する力を身につけること、またDXを組織内で推進する際の進め方（例えばPoCの進め方等）を学ぶことが求められる。



DXによる事業影響を踏まえてITプロジェクトを推進する人材

ジョブ解説

DXのためのITプロジェクトを企画することが増えており、ビジネス要件や業務要件をまとめていく難易度が高まっている。ITプロジェクトの工程を以下のように表現した場合、

1. ビジネス要件定義
2. 業務要件定義
3. IT要件定義
4. IT開発

従来の「2. 業務要件定義」よりも上流の「1. ビジネス要件定義」～「4. IT開発」まで責任範囲が広がっており、ビジネス要件を理解しつつ業務要件定義の力が求められることや、テクノロジートレンドを取り入れたIT要件定義の力が求められる。ITプロジェクトマネジメント力に加えて、業務プロセス設計やクラウド活用、セキュリティなどのスキルがトレーニングテーマに選ばれている。

代表的なスキル

業務プロセス設計



ITプロジェクトマネジメント



業務プロセス設計

複雑化しがちなITプロジェクトの中で業務要件定義が不十分だとIT要件定義以降のリスクにつながる傾向がある。

業務要件定義を主導する際には業務プロセスをヒアリングしながらAsIs、ToBeの業務フロー図や業務要件一覧等をドキュメンテーションで表現することが求められる。また、その検討における論点を整理するスキルも求められるため、学びのニーズが高まっている。

ITプロジェクトマネジメント

ITプロジェクトのQCDをコントロールするスキルは、DXの流れの中でより一層重要視されるようになっている。

とりわけ、既存システムの保守運用を主業務としてきた方々にとっては学び直しのスキル領域として人気がある。新規システムの開発を主業務としてきた方々も我流になりがちのため、学び直しのスキル領域として人気がある。

Solutions

「学びのコーチ」サービス紹介

学びのコーチとは

法人向け伴走型DXラーニング

DX人材の育成をカリキュラム設計・学習伴走で支援

<https://www.manabicoach.jp>

学びのコーチは、オンラインコンテンツを活用し、学習目的に応じたカリキュラム設計と継続的な学習に繋げるための学習伴走を通じて着実なスキル習得を ご支援します。



※2021年4月～2022年6月時点



「学びのコーチ」の特長

学びのコーチは**最適なカリキュラム設計**と**コーチによる学習伴走**を**ワンパッケージ**で提供し、DX人材の新規スキルの習得と定着を支援する新しい研修サービスです。

POINT 01



カリキュラムの設計

×

POINT 02



学習伴走

カリキュラムの設計

スキル × 到達レベル から最適なカリキュラムを選定

POINT 01



カリキュラムの設計

- 細分化したオリジナルのスキル定義から最適なカリキュラムを選定
- 現在のスキルレベルと目指すスキルレベルを考慮して到達レベルを設定

使用教材

カリキュラムで使用する教材は、信頼と実績のある学習プラットフォームです。
受講者数4,400万人[※]を超えるUdemyの法人向け講座と、
豊富な学習コンテンツを持つマイクロソフトが提供するデジタルスキル認定資格教材です。

※2022年8月時点

udemy business™



学習伴走

キャリアコーチとテクニカルコーチが学習伴走

POINT 02



学習伴走

- キャリアコーチに相談し、不安を解消することで、学習者が前向きなマインドセットに変わります。
- テクニカルコーチとアウトプットを繰り返すことで、学習者のスキルセットが変わります。

キャリアコーチ

- 受講者のキャリア観や今後の目標を踏まえて「学習する意味（学習動機）」を共に見出す支援
- 学習テーマの習得に必要な学習時間のすり合わせ及び学習計画作成アドバイス

テクニカルコーチ

- 学習内容に合わせた専門家が担当
- 技術的な不明点へのQ & A 対応や学習者へのアドバイスを通じて理解を助けます

学びのコーチが選ばれる理由

高い学習継続率と資格合格率の理由は、
最適なカリキュラム設計とコーチの学習伴走により学習が継続し、
着実にスキルが定着することにあります。



※2022年6月時点



※2022年6月時点

Contact

お問い合わせ

問い合わせ先

プログラムの詳細説明、具体的なプログラムの提案・設計、費用の見積等、遠慮なくご相談ください。

■ E-Mailでのお問合せ

manabicoach-contact@persol-innovation.co.jp

■ お問合せフォームからのお問合せ

<https://www.manabicoach.jp/contact>



学びのコーチ